

名前：

私は、率直に言、て、インターネットが好きではない。何故なら、インターネットにおける情報は過剰だからである。情報は一定量手に入る事によって、初めて、主体にとって意味を成す。過剰な情報は、即座に無意味に反転しやすい。

私がインターネットを前にして抱く不安とは、結局そういうものだ。そこでは無数の情報も手に入る事が出来るのだが、同時にそこには不要な情報も氾濫しているのである。しかも、その情報が私にとって不要であるか否かは、実際にニュースをワリッワリし、情報を得た後に初めて分かるのである。要するに、その過程は徒労に終わるのである。残されたものが、有効な情報ではなく、目の疲れだけである、というのはよくある事だ。

それに対し、新聞や雑誌というのは、慣れしている人間にとっては、とても便利である。新聞や雑誌は、編集者によって、ある一定のイデオロギーを内包しているのは確かだが、

主体が、それを見抜く力を持っていれば、そこにある情報は確かに有効なのである。おまけに、その新聞・雑誌のカラー、可能な議論を知っていれば、他の情報源（他社のメディア）との比較も可能であり、単に情報を得るだけでなく、そこから思考訓練も可能になるのである。

合わせて、新聞の簡潔な記事構成も考えてみる。普通、新聞は社会面・経済面、などある一定のルールに従って構成されている。それさえ分かっていると、読者は即座に必要な情報を選択する事が出来る。おまけに、トップニュースは一面を見ただけで、大体、把握出来るし、新聞全体の見出しを読んだだけでも世界で起っている事の、大方のポイントは押えらるのである。

以上の様な理由で、私はこれからも、新聞や雑誌を愛好していかよう。